

●地域ケアプラザ・地域包括支援センターとの連携

地域ケアプラザは、市民の誰もが住み慣れた地域において健康で安心して暮らせるよう、地域の福祉・保健活動を支援し、福祉保健サービス等を身近な場所で総合的に提供する施設です。

地域包括支援センターは、介護保険法に定められた、地域住民の保健・福祉・医療の向上、虐待防止、介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関です。横浜市では、地域ケアプラザ及び市が指定する特別養護老人ホーム（緑区では、「特別養護老人ホーム ふじ寿か園」）に、機能の一つとして地域包括支援センターを設置しています。

緑区内の地域ケアプラザ及び地域包括支援センターの紹介や主な取組は、P. 88～94をご覧ください。ここでは、共通の取組を紹介します。

【緑区制50周年記念プレイベント 歌声広場】

地域福祉理解促進と地域ケアプラザ周知、つながりづくりと活躍の場の提供を目的に、区内地域ケアプラザ（6ヶ所）とふじ寿か園地域包括支援センター、緑区社会福祉協議会、緑区役所が連携し、区制50周年プレイベントとして緑公会堂にて実施しました。

それぞれのケアプラザの特徴を生かし、ケアプラザで実施している「歌声広場」に参加されている方々、ケアプラザを活動拠点としているコーラスグループなどにご協力いただき、乳幼児から90歳を超える方までが舞台上に立ち、日頃の活動成果を十分に発揮されました。客席も含め大きな歌声が公会堂に響き、楽しい時となりました。



【地域活動交流コーディネーターハウス】

地域活動交流コーディネーター

地域ケアプラザの地域活動交流コーディネーターの職種を知っていただくことを目的に、区役所一階イベントスペースで「コーディネーターハウス」というイベントをおこないました。横浜市唯一の職種であること、職業として魅力的な職種であることを、地域や世代を越えてアピールする3日間になりました。

今年は2回目であり、昨年決定したマスコットキャラクターの名前を公募しました。キャラクターには地域の「地」、交流の「交」、交流の「流」、をもじってできた「チコル」という名前に決定しました。そのお披露目会もかねて、初日には発表セレモニーも行われました。



キャラクターの名前が「チコル」に決定しました。



コーヒーや紅茶を美味しく入れてくださるボランティアの協力もあり、日替わりメニューも楽しみながら、イベントを行うことができました。